

令和7年度 第2回湯沢町総合計画後期基本計画審議会
議事要旨

日 時：令和7年10月30日（木）午後14時30分～午後16時30分

場 所：湯沢町役場 3階 大会議室

－ 1. 開会あいさつ－

－ 2. 報告－

（1）町民意識調査（アンケート）の結果について

（事務局：資料1、2について説明）

委 員：除雪体制の重要度・満足度が高い結果となっているが、昨年度はどのような状況だったのか。

事務局：昨年は数年ぶりに積雪が3メートルとなり、上越線も月の半分動かず、地下水も枯れてしまい消雪パイプが出なくなってしまうような状況で、町民の方にはご不便をおかけしたと思う。

重要度・満足度の視点から見ると、湯沢町は豪雪地帯であるため、町民にとって重要な課題になっているが、一方で満足度の方も高く、除雪体制については評価いただいている状況である。

委 員：隣町から帰ってくるが、湯沢町は除雪の技術力が素晴らしいと思う。

委 員：新潟市は除雪が下手で、降るとすぐに交通がマヒしてしまう。そういう意味では湯沢町の満足度は高いけれども、雪国としてはこれからも続けていくべき項目なので、重要度が高いのだと感じた。

委 員：若い人の回答をみると、別の町に移り住みたい理由として、「自然環境が厳しいから」が高くなっている。除雪体制の満足度が高いのは確かだが、湯沢に住み続けるという意味ではまた異なる評価となる。若者の流出を止めるためにも、雪というものへの対策を考えていく必要があるのではないか。

会 長：実際、若い方にとってはどうでしょう。

委 員：実家が観光産業に関わっているため、雪が降るとお金が降ってくるような感覚があった。雪が降ることとは観光に有利になるので、悪いイメージはない。

委 員：長年湯沢に住んでいるが、一戸建てを維持するのが一番大変だと思う。家までは誰も除雪してくれないので、玄関から道路までの数メートルの雪かきを3～5カ月続けるのは大変。仕事を辞めると雪が降っても稼げるわけでもなく、家族と一戸建てはダメだと話しているところだ。また、湯沢は関東に近く、すぐ側に雪の悩みのない場所があるので、なおさらそう思うのかもしれない。

委 員：私の実家は観光に関連していなかったもので、雪にいい思いはない。除雪が難しいだろうから戸建ては厳しいと感じ、いまはマンションに住んでいる。自分は除雪に関わっていないし、家族も除雪が嫌だと言っている。

委 員：三国トンネル開通・苗場スキー場開場時、過疎地だった部落で全員が民宿、スキー旅館を始めて、産業・経済の光を浴びていた。その当時は雪がいやだという人はいなかったと思う。雪の価値が変わってきているのは間違いないだろう。雪は湯沢の中では絶対必要なものなので、これをどう取り扱うか、どう思うのかは大事だろう。

とはいえ、雪を避けるために町民がマンションに住むような動きもある。

そんな中で、実は除雪も経済の一部ではないかと、建設業界は冬になるとほとんどその除雪の業務に

携わっていて、それが経済を支えている部分はすごくある。だから、克雪を活用できるようにしていくところが一つのポイントだと思う。

委員：高齢になるほど、雪の除雪に加えて、灯油代が非常に大きな問題になる。一冬2～30万かかるので、国民年金だけだと足りない。同級生もどんどんマンションに入っているが、それはその方が安くなるからだ。

委員：移住者はそういった事情を知らないため、引っ越すとその金額に驚く。極端だが、湯沢はスキーをする場所で住む場所ではないという人もいる。

委員：雪の話もだが、地域や社会をよくしようとか、地域が好きだというのは地域の文化等が影響していると思う。60年前、私が中学生だった時はマンションもなかったけれど、みんなが楽しかった。ロープウェイができたとき、除雪されてない道をスキーで家まで帰っていた時代で、家に帰っても遊び場があったし、まちが一体化していた。そういうのが地域の一番の大本だと思うが、アンケート結果をみると重要度はそれほど高くない。若い人たちの心の部分というか、目に見えないものへの対応もできればと思う。

委員：雪に対応できない人達、要するにスキーが好きで湯沢に移り住んでいる人たちが、高齢でスキーができなくなると孤立してしまう。冬は除雪が課題というが、買い物の不便さは夏も変わらない。高齢者の住みよい街をつくらないと、冬の間は湯沢から出たいという方は多いと思う。

委員：文化施設、スポーツ・レクリエーション施設の満足度が低い。実際、雪が降っている間の遊び場や社交場が限られていると感じる。今のこども達は、雪降ると嫌がる子が多い。日頃から雪と遊ばない、親も遊ばせない中で、室内でゲーム遊びができることも影響していると思う。雪があっても雨が吹いても、夏暑くても集まれる、遊べる場所が充実してくると、子育て世帯には生活しやすいと思う。

会長：世代が変わると課題に感じている点が変わると思う。意見を踏まえて基本政策を見直していただきたい。

（２）湯沢町総合計画の成果指標の達成状況について

（事務局：資料３について説明）

委員：「来訪者満足度」における「冬」の達成度が低くなっているが、一番大きな要因は何と考えられるか。

事務局：夕食漂流者に加え、インバウンド増加に伴うオーバーツーリズム等で、公共交通が利用できなかったことが影響していると想定される。去年は雪で交通がマヒしてしまい、スキーをしに来たができないというようなこともあった。それらが満足度を下げていると想定される。

会長：この調査は日本人に聞いているのか。外国人も含めているのか。

事務局：越後湯沢駅で聞き取り調査で外国人も入っている。

会長：調査対象者数については把握しているか。

事務局：把握していない。

－ ３．議題－

（１）後期基本計画におけるまちづくりの主な課題について

（事務局：資料４について説明）

① （１）少子化対策の推進、若者・子育て世代の移住・定住の促進、（２）通年観光の進行
に向けた産業基盤の整備について

委員：2について、去年あたりから外国人の方が不動産を買っている状況である。ニセコがリゾートとして有名になったように、湯沢もそのようになりつつあるのではないか。今後、町がどのようなポジションとするかが重要課題だろう。

委員：湯沢のHPをみるとわかるが、12～3月の4か月間は外国人労働者のため住民基本台帳人口が一時的に増加している。冬のインバウンドの方々を受け入れるために外国人労働者を受け入れないと、湯沢の経済は回らない状況になっている。一方で、外からくる方々への対応を考えていく必要がある。ゴミの問題は最たるものだろう。

会長：先行自治体を参考に対応を取り入れるのもいいだろう。

委員：少子高齢化について、町が積極的に関わっていくべきではないか。他市町村の取組を町が見学して、地域活性化のために運営方針を考えてほしい。

委員：『湯沢町に「住み続けたい」と回答した若者（20歳代）の割合』が28.1%にとどまっているのは驚いた。湯沢町は観光立町を掲げているが、若者に選択されるまちづくりを行うために、彼らが抱えている日常的な問題点を解決できればと思う。

② （３）子育て支援の充実、こども・若者施策の推進、（４）超高齢社会への対応と心身の健康づくり、（５）コミュニティ・つながりの再生と孤独・孤立の防止について

委員：今、公民館や社会教育事業等には、地元の人よりもマンション住まいの方が多く状況である。昔から住んでいた人よりも、マンションに新しく住んでいる人の方が、こういった事業への意識が高い印象を受ける。

委員：湯沢学園が10周年を迎えたところである。次回でいいので、この10年間で、こども達のためにどのようなことが行われてきたのか、教えていただければありがたい。

会長：事務局には対応をお願いできればと思う。

成果指標をみると、「湯沢学園支援コーディネーター及びボランティアの学園支援事業への参加人数」の数がすごく増加しているが、どのような理由が想定されるか。

事務局：当時はコロナで学校行事ができなかったため、コロナが明けで行事が増えた分、参加者が増えていると想定している。

会長：これはどういった方が登録しているのか。

委員：学校の窓口に申込書が置いてあり、自分のやれることを書くと、学校から連絡がくる仕組みである。申請者が案を出して活動するというわけではない。

委員：ボランティアがいるから成り立っている町の事柄はすごくあると思う。一方で、参加者も高齢化が進んでおり、いつまでも活動できるわけではない。若い世代を含めた、ボランティアの引継ぎが必要だと感じている。

委員：3について、『安全で安心して通い、過ごすことができる教育環境の整備』が最も求められているほか、「高校や大学への進学を見据えた学力の向上」が高い』ということで、おそらく子育て世帯の意見だと思った。こどもが小さい世帯は安心安全を求め、それ以降は進学が重要事項になると思う。今、湯沢の学力は平均以下で、町内には高校もないので、卒業した後どこにいけるのかがとても不安を抱えている。学力の向上、進学先の相談等、先が見えるようになると安心して住み続けられると思う。

③ (6) 利便性が高く、安全・安心な生活環境の整備、(7) インバウンド対策と外国人への対応の強化、(8) 行政運営体制の強化と業務の効率化、財源の確保について

会 長：日本語が話せない方は、実際に小学校にいるということか。

委 員：こどもはあまりいないが、保護者が分かっていないと思うことはある。保護者会では、日本語が喋れなかったり、プリント等読まれていないのではと見受けられることがある。

委 員：8について、隣の南魚沼市はふるさと納税でかなり潤っている状況であるので、ふるさと納税の戦略を考えてはどうか。

また、町長が宿泊税をとると発表したが、現在は勉強中というよりも前に進もうという方向で検討している。ただ、宿泊施設を中心に丁寧な説明ができておらず、反対が多い状況もある。新潟県も宿泊税導入に動いているところであるが、先行して実施すると県に渡す分を少し減らせるという話もある。現状、前に進もうという話があるため、具体的な内容までは不要だと思うが、キーワードとして書いてもいいかもしれない。

委 員：インバウンドの増加で町としては喜んでいると思うが、例えば妙高にこどもを行かせるとお昼ご飯が高くて買えない状況がある。湯沢の町民はそういった状況になることを望んでいるのか、物価が上がったときに町民が対応できるのか。不動産を買ってくれるのは嬉しいかもしれないが、その先を考えると危機感がある。二重価格を設定している場所もあるので、どうやったら今いる人が暮らしやすくなるのかを考えていくと良い。

委 員：80年代から90年代初めに乱開発があったが、その時に町のグランドデザインがあればという話をよく聞いていた。計画の大前提となるような、住む人も幸せになるような、大きなグランドデザインも示せればと思う。

会 長：今回は大きなフレームは直さないという立場だが、また同じような開発の繰り返しというようなことが起きるといふことの懸念を町民の皆様からお示しいただいたという風に思うので、事務局でもご検討いただきたい。

では、時間になったので事務局の方に進行を移したい。

－ 4. 閉会のあいさつ －

事務局：今後の予定を共有させていただきたい。

第3回 11月28日 13時半～、会場は調整中

第4回 12月10日 13時半～、会場は本会議同様

第5回 12月26日 13時半～、会場は本会議同様

以上を想定している。3～5回の審議会を踏まえ町長への答申案を作成し、12月下旬に町長へ答申を行いたい。年明けにはパブリックコメント等の手続きに入っていく予定である。

鷲見会長：第3～4回で、基本政策の中身を議論いただくということか。

事務局：左様である。

最後にご意見あれば伺いたい。

それでは本会議はこれで終了する。ありがとうございました。

(以上、終了)

